

男女共同参画社会へ向けて
一人の「100歩」より
100人の「いっぽ」を！！



(株)MYプロデュース 取締役 兼フリーアナウンサー。
KKT「テレビタミ」のメインキャスターを21年間担当。
愛称は“もっちゃん”。令和5年に定年退職し、新会社を設立。
司会、講演、講師などを務めながら、“熊本をプロデュースする”を合言葉に、様々な事業をスタートさせている。
神奈川県横浜市出身。60歳。

参加者のこえ

女性が！男性が！ではなく、人としてどう幸せに生きていくかを考えていくことが大切だと感じた。

多様性とは、相手を受け入れ認め合う、お互いを良くするためにサポートし合えることだと思う。

夫婦で参加しましたが、それぞれの胸に刺さる言葉がありました。

今後は、アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)に対して疑問を持って生活しようと思った。

自分らしさを認め合おう

～多様性と個性の尊重こそ社会の活力～

1月20日(土)、御代志市民センターで気づきうなずきフェスティバルを開催しました。

フリーアナウンサーの本橋馨さんを講師に迎えた講演会は、男女共同参画に関する国際的なデータ、本橋さんがKKTのアナウンサー時代の番組「テレビタミ」で取り扱った事例、本橋さん個人の実体験などを基にした内容となりました。

質疑応答では、荒木市長も交えて活発な発言が飛び交い、とても実りある講演となりました。

【講演のPoint!】

2023年世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ(国ごとの男女格差)指数では、日本は146カ国中125位。これは、東アジア太平洋諸国では最下位である。

女性の政治・経済分野での進出が進むということは、一見、少子化が進みそうであるが、実はその逆であるというデータがある。現に、女性の社会進出が進んでいる北欧諸国では、少子化は改善し、日本では少子化が進んでいる。

男女共同参画の推進、さらには多様性と個性を尊重することは、現在の日本が抱える少子化という課題解決の第一歩となる。

オープニングでは、西合志南中学校吹奏楽部の皆さんが登場しました。「銀河鉄道999」と「マードックからの最後の手紙」の2曲が披露され、時に立ち上がり、リズミカルに踊りながら演奏するなど、活気にあふれ、客席からは盛大な拍手が送られました。

部長の平山愛莉(ひらやま あいり)さんは、「地域の皆さんの前で、楽しんで演奏できました。みんなで協力して、今以上に成長していきたいです。」と今後の抱負を語りました。



育児休暇のススメ ～育児休暇を振り返って～

令和4年に法律が改正され、男女とも仕事と育児を両立できるように、「産後パパ育休」や「育児休業の分割取得」ができるようになっていきます。

しかし、「育児休暇を取りたいと思うけど、どんなことをしたらいいかわからない」という方も多いようです。そんな方の育休取得の後押しになればと思い、双子の育児休暇を経験した男性市職員取材しました。

合志市役所勤務 井芹 和幸さん

【プロフィール】

年齢:35歳

家族構成:妻、子(2人 1歳)

育児休業取得期間

令和5年6月～令和6年3月(10カ月間)

Q1 育休を取ろうと思ったきっかけは？

当初、恥ずかしながら、あまり育児休暇を取ることを考えていませんでした。もし、取得しても1～2カ月程度だろうと想定していましたが、妊娠途中で双子だと判明、また私の親が入院することになり、慌てて職場のさまざまな先輩や人事の方に相談しました。出産時期と親の退院時期が重なり、いわゆる「ダブルケア」を進めていくためにも、6月から翌年3月末までの長期の休暇取得を取ろうと決心しました。

ありがたいことに、職場の皆さんの理解があり、背中をすごく後押ししてもらえました。優しい思いやり言葉掛けには、とても感謝しています。

Q2 大変だったこと、それを乗り越えた方法は？

いざ、育児がはじまると、当たり前ですが、全てが初めてのことばかりです。事前に育児の進め方や、成長月ごとの1日のスケジュールなど調べておりましたが、どれも必ずしも当てはまるわけではなく、毎日が四苦八苦の連続でした。そんなときには、何よりも家族や周りにいる先輩ママやパパなどのアドバイスがとても参考になりました。

日頃から家族や友人、さらには子育てサロンなどに参加し、たくさんの人と関わることで、参考になることや新しい発見があります。

自分たちだけで育てていくのではなく、たくさんの人たちの力を借りて育てる、そう思えるようになると、自分自身の気持ちも少し楽になっていくと思います。

Q3 パートナー(妻)の反応は？

私が育児休暇を取ることにに関して、妻は、「一人だとんやわんやしていたと思うので、二人で余裕をもって育児にあたることができたと思う。夫が育児をしている間に買い物やほかのこともでき、気持ちにも余裕ができるから休暇を皆さん活用してほしいと思います。」と言っており、妻と



共に育児・家事を進めることができたおかげで、お互いに一人で抱え込まずにすみ、いつも気持ちや思いを共有できたのでとても心強かったなと思います。

余談ですが、双子、三つ子の先輩ママとサロンで会った際には「当時のことは忙しすぎて記憶がない」、「夫には絶対に活用してほしい」と話をされており、改めて取得できてよかったと思いました。

Q4 今後の子育てについて

最近、妻が「子どもたちが成長していくのが早すぎて悲しい」と口にします。確かにミルクを飲まないことや、夜何度も二人の泣き声が連鎖して眠れない日もありますが、全ての言動が愛おしく、大変だったことも嬉しかったことも、この瞬間は二度と帰ってこない大切な宝物だと感じるようになります。子どもたちは一日中不機嫌な日もあれば、ニコニコしている日もありますが、その日々を大切に心に刻み、これからも子どもたちと一緒に家族みんなで成長していきたいと思います。



地域のリーダー

女性区(自治会)長に聞いてみた

本市には、現在(令和6年3月現在)、87の区(自治会)があります。区(自治会)のリーダーである区(自治会)長さんは、地域の活性化や円滑な運営、市と地域とのパイプ役としてさまざまな分野で活躍されています。

その中でも、女性の区(自治会)長さんは9人(約10%)です。全国でも、約24万ある区(自治会)の会長職に占める女性の割合は、わずか6.8%に過ぎません(内閣府「令和4年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」)。

こにし よしこ

今回は、本市の榎ノ本区長として活躍されている小西淑子さんにお話をうかがいました。

Q1 区(自治会)長になろうと思ったきっかけは？

区の公民館長をしていた時に、公民館の整理整頓をして区民の方に喜んでいただけたことがきっかけです。また、熊本地震を経験し、「地域の方たちのために何かをしたい。どうしたら喜んでくれるか。」と考えるようになりました。もともと人の世話をやくのが好きだったことや、周囲の方から推薦していただいたこともあり、榎ノ本区の力になろうと思い、区(自治会)長になりました。

Q2 区(自治会)長としての心がけていることは？

区の代表として、区民の皆さんの要望や意見を聞いて市に届けたり、区民の親睦や区の活性化を促すためにイベントを企画したり、一つ一つのことに熱意を持って取り組むことが大切だと思います。また、気配り・目配り・心配りをモットーに、女性目線で細かいところに目が届くように心がけています。

Q3 区(自治会)運営で苦労されていることは？

いろいろな考えをお持ちの方がおられるので、全ての区民の方に区の運営や方針を理解してもらうのは難しく、時には衝突することもあります。そういう時は、いろいろと考え込んでしまい、モチベーションを保てなくなりそうになりましたが、区民の方の笑顔や「ありがとう」の言葉に勇気づけられました。

また、区(自治会)に加入しない方や脱会される方もおられ、その方たちにどうしたら区(自治会)執行部の気持ちが分かってもらえるかに頭を悩ませています。

Q4 地域のために望むこと、将来の地域に繋ぐための考えを教えてください。

若い世代が区(自治会)の執行部として活躍してほしいと思います。また、合志市の女性区(自治会)長の割合が全体の30%くらいになって欲しいと思っています。若い人たちの活力や、男性と女性の能力を併せることで、より大きな力を発揮できると思います。まずは、榎ノ本区から変えていきたいと思っています。



パートナーシップ・ ファミリーシップ宣誓制度

合志市パートナーシップ・ファミリーシップ 宣誓制度とは

性的マイノリティや事実婚の人など、同性・異性を問わず、お互いを人生のパートナーとし、日常生活において、対等な立場で、相互に責任をもって協力すると約したお二人がパートナーシップの関係にあることを市に宣誓し、宣誓したことを市が証明するものです。お二人に未成年のお子様がいらっしゃる場合は一緒に宣誓することもできます。

この制度は、婚姻制度とは異なり、法律上の効力（相続・パートナーの子ども親権者になるなど）は生じませんが、お二人が自分らしく人生を歩んでいけるよう支援することを目的としています。

合志市では
令和5年4月から
スタートしています！



全国の導入状況（パートナーシップ宣誓制度、パートナーシップファミリーシップ宣誓制度）



導入自治体 : 328自治体

(令和5年6月28日時点)



交付件数 : 5,171組

(令和5年5月31日時点)



※渋谷区・虹色ダイバーシティ 全国パートナーシップ制度共同調査より

合志市は『パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度』を通じて、
多様性を認め合うまちを目指します。

市民・事業者の皆さんへのお願い

性的マイノリティへの理解が進むことは、差別や偏見のない社会の実現に繋がります。
本制度の趣旨をご理解いただき、活用できる場面が増えるようご協力をお願いします。



市ホームページ二次元コード
合志市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について